

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次

- ・特に注意！なす、トマト、ミニトマト(施設栽培)：コナジラミ類-----p1
- ・水稲-----p2
- ・果樹【バラ科果樹】-----p3
- ・野菜【なす、たまねぎ、あぶらな科野菜】-----p4～5

特に注意！（1月）

なす、トマト、ミニトマト(施設栽培)：コナジラミ類(タバココナジラミ：トマト黄化葉巻病)



タバココナジラミ※



コナジラミ類成虫*

特徴

- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ トマトやミニトマトでは、タバココナジラミの吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等の被害を引き起こす。トマト黄化葉巻病に感染すると、生育の停止・着果不良を起こす。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、コナジラミ類の侵入を阻止する。
- ◆ 野生生えトマトを含め、施設周辺及び内部の除草を徹底する。
- ◆ トマト黄化葉巻病の感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ アファーム乳剤、トランスフォームフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。



トマト黄化葉巻病発症株

病害虫発生予察注意報第5号「コナジラミ類」
(令和6年8月29日発出)についてもご参照ください。https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2408_chuuihou05_konajiramirui_soshin.pdf

<病害虫防除グループホームページに関するお知らせ>

これまで本メールサービス等を掲載していた当グループホームページ <https://www.jppn.ne.jp/osaka/> は、令和6年10月末で更新を終了し、以後は以下の新ホームページへ情報を掲載します。

旧ページは令和7年3月末にサーバ停止により接続できなくなりますので、ブックマーク等の更新をお願いいたします。

新ホームページ「病害虫防除に関すること」

アドレス：<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

次回の情報は1月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稻(越冬対策)

ジャンボタニシ

病害虫の越冬量を低下させ、
来春以降の発生抑制につなげましょう。



成貝



卵塊

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。田植直後(約20日間まで)の小さな苗のみを食害する。繁殖力が強く、多数の個体が苗を食べつくすこともある。
- ◆ それ以外の時期に被害はないが、個体数を減らすことが重要である。

注)成貝の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

防除のポイント

- ◆ 冬期に耕うんを行う。越冬個体は地表から深さ6cm以内に分布しており、ロータリーによる耕起(耕うんを浅く、ロータリー回転を速くする)を行い、土中に潜った貝を粉碎したり、地表で寒気にさらし凍死させる。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が混じり、他の水田に移動させてしまうことがあるので、移動の際は器具についた土をしっかりと落とす。

農林水産省・安全局植物防疫課令和5年「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植栽培)」はこちら
https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/PDF/sukumi_manual.pdf

カラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう！」はこちら
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/jumbo_tanishi_osaka.pdf

縞葉枯病(ヒメトビウンカ)



縞葉枯病(ひこばえでの病徴)

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆ 発病した株をヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。
- ◆ 本田初期に発生すると、新葉が細くなり巻いて垂れ下がって枯れ、「ゆうれい症状」と呼ばれる状態になる。本田後期の感染では、黄緑色の条斑を生じ、出穂が異常となって出すくみ症状を起こす。
- ◆ 本府の主力品種ヒノヒカリ、きぬむすめ、キヌヒカリはいずれも本病への抵抗性がないため発病に注意が必要である。
- ◆ 発病を防ぐには媒介するヒメトビウンカを防除する必要がある。
- ◆ ヒメトビウンカは成虫で越冬するため冬から春先の対策も重要である。

防除のポイント

- ◆ ウイルスに感染したひこばえは、本病の伝染源となる恐れがあるので、放置せず刈り株をすきこみ処分する。
- ◆ 冬～春期に畦畔の雑草を刈り取り、ヒメトビウンカの越冬密度を下げる。

果樹

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫

株元に溜まったフラス



成虫

防除のポイント

- ◆ 被害が大きい樹は伐採し、破碎(チップの厚さは10mm以下を目安)や焼却することが望ましい。
- ◆ 伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分できない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。
- ◆ 幼虫は根部も加害するため、なるべく抜根する。抜根できない場合は、伐採後の切り株をネットやビニルシート等で2重に覆い、内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。
- ◆ 本種は特定外来生物に指定されており、移動が制限されているので伐採後の残渣処理についても注意する。

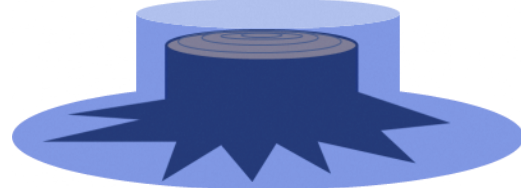
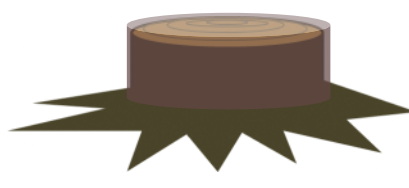
- ◆ 秋に大量のフラスを出している被害樹からは来年の6月～8月に成虫が羽化してくる可能性が高いので、冬～5月までにネットを樹幹に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込め、他樹への分散を防ぐ。

伐採後の切株について

なるべく伐根する

伐根できない場合は、切株をビニルシートや肥料袋等で覆う

さらにネットで2重に覆う(根部まで全て)



処分に伴う運搬について

- ◆ 本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆ 市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆する等の分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆ 廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。
- ◆ 一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
- ◆ 例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R6.8改訂版)」
についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kubiaka_osaka.pdf

野菜

なす（施設栽培）

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 苗からの持ち込みにより本ぼでの発生が多くなる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマによって葉が加害されると、葉脈に沿って不規則な白斑が生じる。また、ミカンキイロアザミウマによっては、葉脈間に白斑が生じる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブルなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

たまねぎ

ベと病



苗での症状*

特徴

- ◆ 育苗時や定植後に、被害残さ等から感染し、越年罹病株として1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。越年罹病株は、葉色は光沢のない淡黄緑色で、生育も劣る。

防除のポイント

- ◆ 越年罹病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000等を予防的に散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、ブロッコリー、こまつな等）

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

特徴

- ◆ 晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ 発病した株は、根ごとほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 収穫作業は未発生ほ場より行い、汚染ほ場を拡大させない。
- ◆ 汚染ほ場の作業後は、機器や履き物等を洗浄する。
- ◆ 多発傾向のほ場は土壌消毒を行う。（府防除指針の土壌消毒の欄を参照）

菌核病



キャベツでの発生

特徴

- ◆ 暖冬・多雨時に発生が多い。
- ◆ ネズミの糞のような黒い菌核が土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 発病株は、見つけ次第菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ キャベツやブロッコリーで発生が予想される場合は、ベンレート水和剤、セイビアーフロアブル20等を散布する。
- ◆ 多発ほ場では、菌核病の発生しやすいあぶらな科野菜やレタスなどを連作しない。
- ◆ 水稲との輪作は防除効果がある。

5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年2月末 農林業経営体調査

令和7年1月中旬～令和7年2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025



2025農林業センサスキャンペーンサイト(農林水産省)

(<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/2025cp/cp99.html>)

